

第2章 埼玉県の実況と課題

1 県民意識の実態

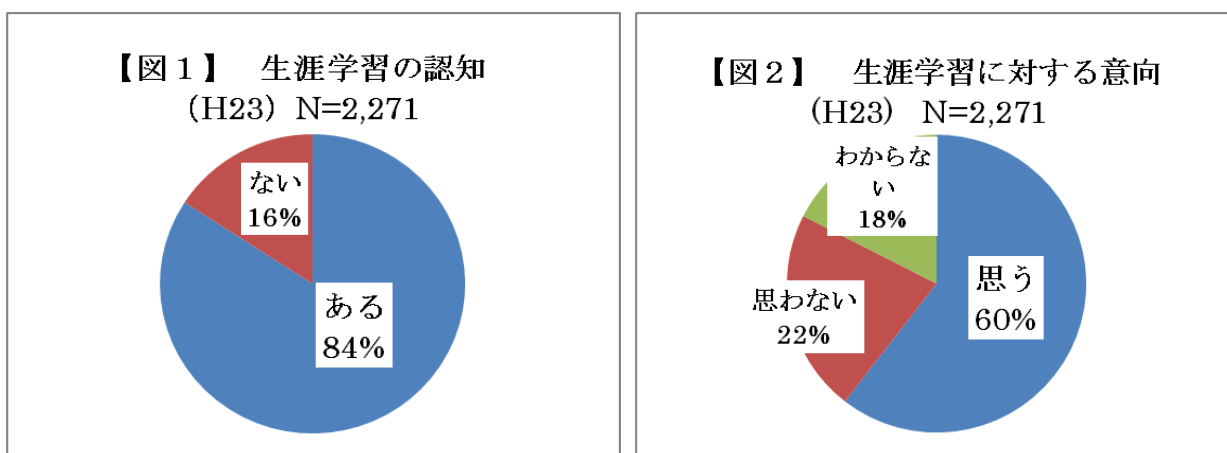
生涯学習をより推進し、県民の学習活動の一層の活性化を図り、県の支援の方向性と在り方を指針として策定するに当たり、県民の生涯学習に関わる意識の実態を捉えました。

(1) 生涯学習に関わる「県民意識」

「埼玉県政世論調査（平成23年）」及び「第34回県政サポーターアンケート（平成24年）」によると以下のような結果となっています。

ア 生涯学習に対する認知・意向について（【図1】、【図2】参照）

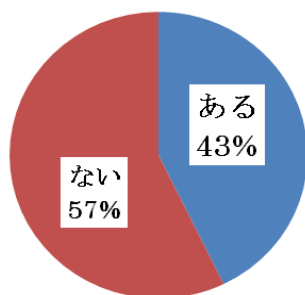
『生涯学習』という言葉聞いたことがあるか（図1）という問いに対し、「ある」は84%となっています。また、「今後、『生涯学習』を試してみたいと思うか」（図2）に対しては、「してみたいと思う」は60%となっています。一方、「してみたいと思わない」は22%となっています。



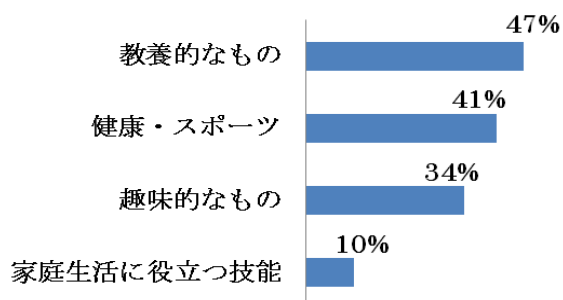
イ 生涯学習の経験の有無と内容について（【図3】、【図4】参照）

「この1年くらいの中に『生涯学習』をしたことがあるか」（図3）においては、「ある」が43%、「ない」が57%となっています。また、経験内容（図4）については、教養的なものが最も多く47%となっています。

【図3】 生涯学習の経験
(H24) N=1,991



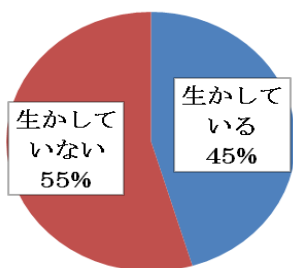
【図4】 生涯学習の内容 (H24)
N=1,991



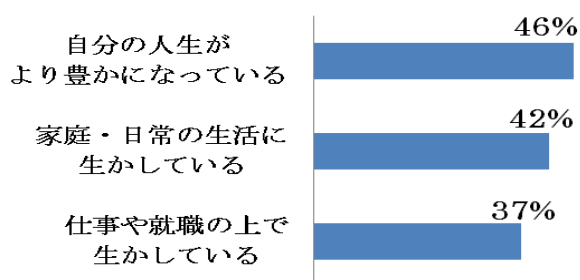
ウ 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験の生かし方について
(【図5】、【図6】、【図7】、【図8】参照)

『生涯学習』を通じて身に付けた知識・技能や経験を生かしているか(図5)に対して、「生かしている」が45%で、「どのように生かしているか」(図6)に対しては、「自分の人生がより豊かになっている」が46%です。逆に、「生かしていない」が55%で、生かしていない理由(図7)に対しては、「時間や機会がない」が38%となっています。また、学校の活動への協力・支援(図8)に対しては、「職業や趣味などの知識を生かした学習指導・補助」が51%です。

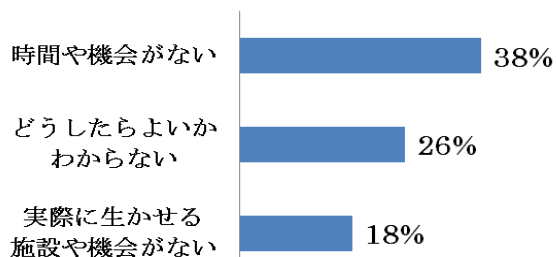
【図5】 知識・技能や経験の活用
(H24) N=1,991



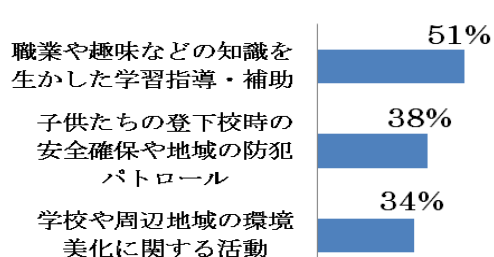
【図6】 知識・技能や経験の生かし方
(H24) N=1,991



【図7】 生かしていない理由
(H24) N=1,991

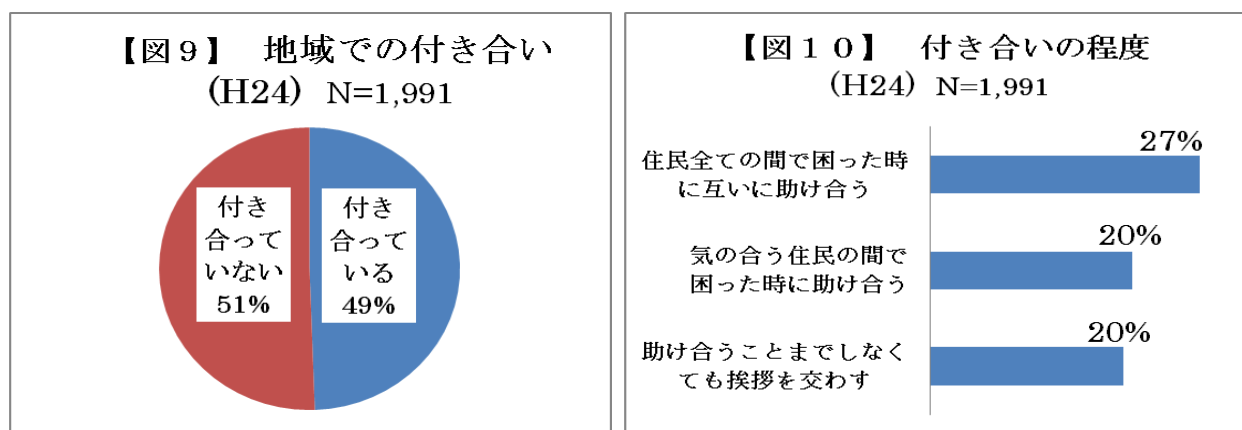


【図8】 学校を支える協力・支援
(H24) N=1,991



エ 地域での付き合いについて（【図9】、【図10】参照）

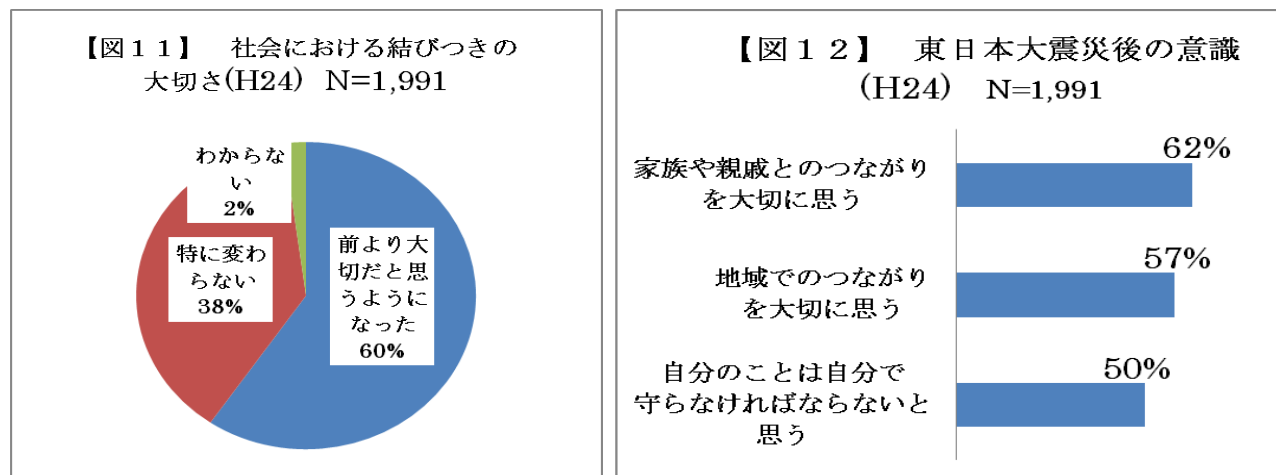
地域での付き合いの質問（図9）では、「付き合っている」は49%で、「付き合っていない」は51%となっています。また、地域での付き合いはどの程度が望ましいと思うかという質問（図10）に対しては、「住民全ての間で困った時に互いに助け合う」が27%となっています。



オ 東日本大震災後の意識について（【図11】、【図12】参照）

東日本大震災前と比べて、社会における結び付きをどのように考えるようになったかという問い（図11）では、「前より大切だと思うようになった」が60%となっています。

また、東日本大震災後、強く意識するようになった事柄（図12）としては、「家族や親戚とのつながりを大切に思う」が62%で、「地域でのつながりを大切に思う」（57%）、「自分のことは自分で守らなければならないと思う」（50%）の順となっています。



(2) 調査結果の分析

県民の「生涯学習」という言葉に対する認知度は84%であり、生涯学習をしてみたいという意向は60%という状況ではあるものの、これを実践している人は43%と少ないことや、学んだことを生かしている人は45%と必ずしも多くないという課題があります。

そうした課題に対応するためには、情報提供の内容や提供方法の在り方、学習機会と場の提供という視点から、特に、社会教育施設等の運営を一層工夫することが必要です。そして、学習者が自分に最もふさわしい学習機会を見つけて取り組むきっかけづくりと学んだ成果を生かす仕組みづくりが重要です。例えば、「学習相談員」を配置したり、学校におけるボランティア活動の情報や企業による地域貢献に関する情報提供を行い、学習者の多様なニーズに対応していくことです。また、社会教育施設では、身近にある図書館や博物館等において、その施設の特色を生かし、展示や解説、読み聞かせのボランティアなど活躍の場を提供することが大切です。

さらに、県民の「地域での付き合い」については、「付き合っていない」が50%を超える状況であり、「地域での付き合いの程度」についても、「住民全ての間で困った時に互いに助け合う」27%、「気の合う住民の間で困った時に助け合う」20%、「助け合うことまではしなくても挨拶を交わす」20%となっており、地域住民間の関係の希薄化を伺える結果が示されています。

一方、平成23年3月に発生した東日本大震災を契機に、「絆」や「コミュニティ」の重要性が再認識されました。地域住民のこうした気運の高まりが見られることから、防災など地域に根ざす課題を取り上げ、地域住民に学ぶ機会を提供することなどにより、地域での交流の機会を増やしていくことが必要です。そうして、地域コミュニティづくりを前進させることが求められます。

2 埼玉県生涯学習推進における現状と課題

「埼玉県5か年計画」（平成24～28年度）を踏まえると、本県の生涯学習を巡る現状と課題は、主なものとして以下のように整理できます。

（1）少子高齢化の進展

ア 現状

我が国の総人口はここ数年横ばいで推移していますが、本県の人口は今後数年のうちに減少に転じ、少子化及び高齢化も更に急速に進んでいく見通しです。埼玉県の人口は平成22（2010）年は約720万人で、そのうち0歳から14歳の年少人口の割合は13%、65歳以上の高齢化率は20%ですが、平成42（2030）年には、約700万人、年少人口の割合は約11%、高齢化率は約30%に達する見込みです。

イ 課題

少子高齢化の進展による人口構造の変化は経済にも大きな影響を及ぼしています。また、高齢者の増加と生産年齢人口の減少による経済規模の縮小や労働力の低下、社会保障費の増大など先行きが不透明な中で、将来への不安感が広がっています。さらに、世代間などにおける経済的・社会的格差は、社会の活力の低下や不安定化につながるものが懸念されています。このような中で、子育てへの不安や異年齢における交流・体験活動の不足を補い、さらには、退職後の健康、生きがいづくりや地域社会における人々の絆の形成に対する支援が求められます。

(2) 価値観の多様化の進展

ア 現状

グローバル化やICT^[*1]の発達・普及に伴い、人・モノ・金・情報や様々な文化・価値観が国境を越え流動化しつつあり、社会の急激な変化を助長しています。特にフェイスブックなどのソーシャルネットワーキングサービスや衛星放送等のメディアによる情報共有はかつてないスピードで進んでいます。

それは、必要な情報をどのような方法で取得し、どのように活用しているか、個人によって様々であり、その判断基準は多様化し、人々の価値観にも大きな影響を与えています。それに伴い、人々の学ぶ方法や形態、さらには学習場所等が多様化してきています。

イ 課題

価値観の多様化が進展する中で、生涯学習社会の実現に向けては、新たな時代に対応できる人材の育成が求められています。そのためには、いつでもどこでも情報を得ることができ、相談できる体制づくりが必要です。

また、埼玉県は、外国人住民の増加傾向が続いています。そこには、多様な価値観を受容し、それぞれの能力を発揮しながら共に生きる多文化共生社会の形成が強く求められています。

このような時代の変化に対応するためには、多様なメディアを活用するとともに、人々のつながりを作り、ボランティア等多様な人の力を合わせた学習の方法が必要となります。

[*1] ICT (Information and Communication Technology) : 情報通信技術。「IT」とほぼ同様の意味で用いられる。

(3) 地域コミュニティの希薄化

ア 現状

都市化や家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化などにより、人間関係の希薄化が問題視されたり、家庭や地域の教育力や人々の規範意識などの低下が懸念されたりしています。一方で、東日本大震災を機に個人が積極的に社会に参画し、他者と協働しながら主体的に「互助・共助」による地域づくりに貢献していこうとする機運も見られます。

イ 課題

以前から地域コミュニティの希薄化が指摘され、東日本大震災などの災害を契機に地域づくりに取り組む機運を広めていく必要性が言われております。そのためには、助け合いや地域コミュニティを軸とした支え合い、そして社会の基礎的単位である家族の絆を強めることなどが必要であり、改めて「人と人の絆づくり」が求められています。そこで、日常生活の中での学び合いを通して地域コミュニティを一層強化していく必要があります。